



# パタゴニア産牛肉の生産動向と 対日輸出拡大可能性について

alicセミナー 平成30年12月20日  
独立行政法人農畜産業振興機構  
調査情報部 佐藤 宏樹  
<https://www.alic.go.jp/>

- **アルゼンチン（パタゴニア地域）における牛肉生産の現状は？**
- **日本への輸出は2018年3月22日に政府間合意に達し、6月27日に衛生条件が締結され、実際の輸出が開始されたところだが、日本への輸出拡大に可能性はあるのか？**

1 はじめに ～パタゴニア地域とは～

2 牛肉生産動向 ～そもそも牛肉生産は行われている？～

3 輸出動向 ～輸出の現状は、成長可能性は～

4 まとめ

➤パタゴニア地域の主な産業は？

## →観光業

アルゼンチンには、年間約573万人の観光客が訪れる。  
パタゴニア地域は、その中心的存在。





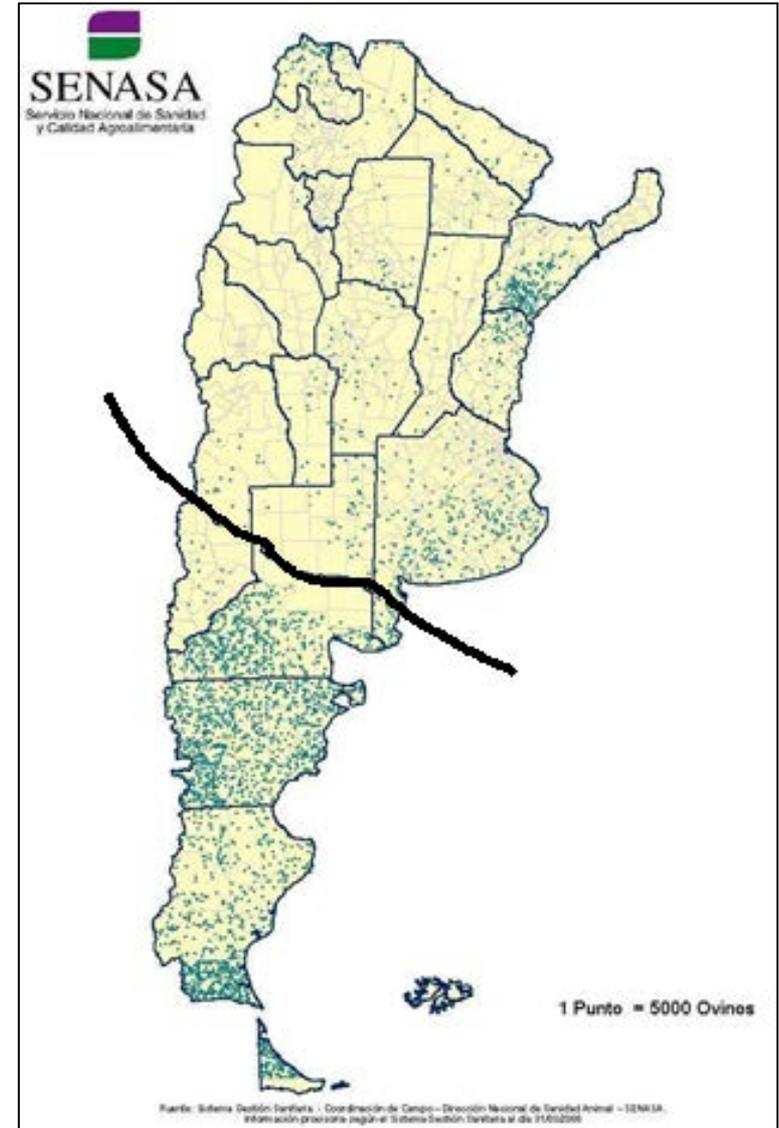
➤畜産業は？

## →羊肉の生産が盛ん

アルゼンチンの生産量のうち、  
パタゴニア産が約85%を  
占める



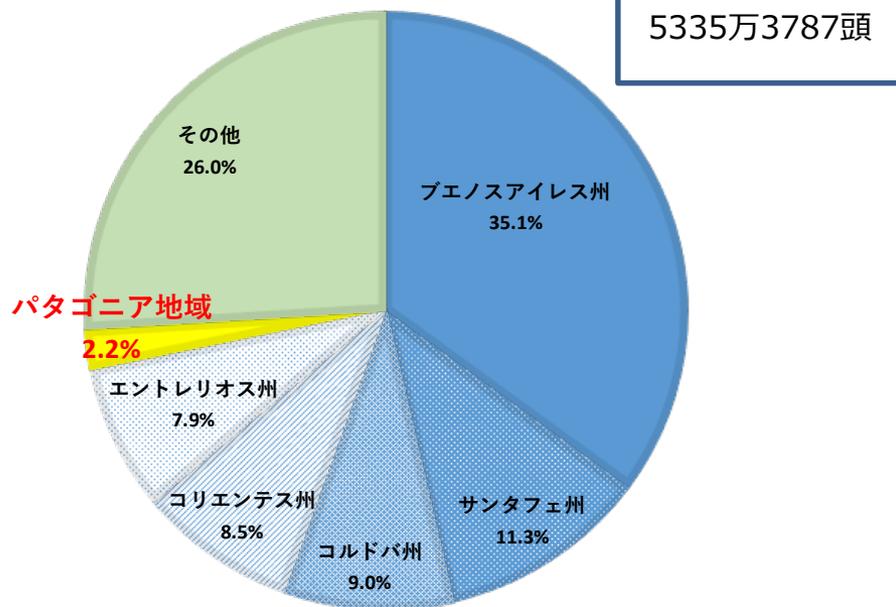
## 羊の飼養分布図



➤では牛は？

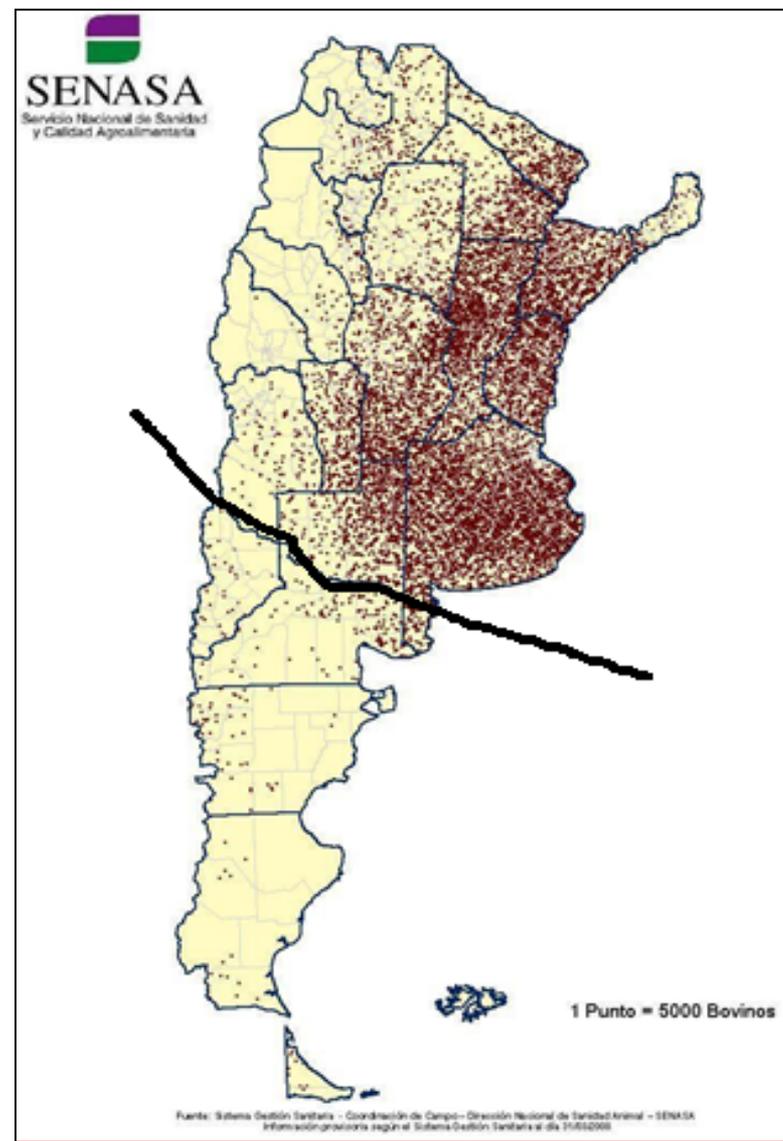
→飼養頭数は、国全体の2.2%  
うち、北パタゴニアA地域に  
60%が集中。

州別飼養頭数割合（2017年）



資料：SENASA

## 牛の飼養分布図



1 はじめに ～パタゴニア地域とは～

2 牛肉生産動向 ～そもそも牛肉生産は行われている？～

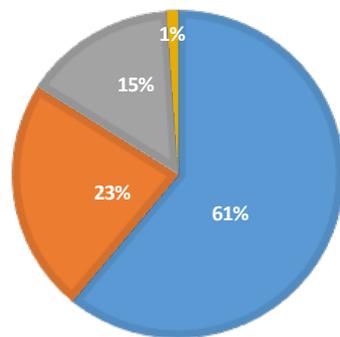
3 輸出動向 ～輸出の現状は、成長可能性は～

4 まとめ

- ▶ アルゼンチン全体で見ると、アンガス種が主流  
パタゴニア地域もアンガス種が主流だが、北部地域と比較するとヘレフォード種およびその交雑種が多く見られる
- ▶ アルゼンチン全国の肉用牛の飼養形態別の農場数をみると、繁殖が全体の6割。一方、パタゴニア地域における繁殖農場の割合は全体の7割強  
→ 大規模農場が少ない、放牧強度を高められないなどの問題？

肉用牛の飼養形態の割合（アルゼンチン全体）

■ 繁殖農場 ■ 一貫農場 ■ 肥育農場 ■ フィードロット農場

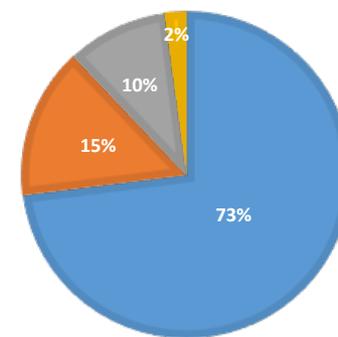


合計  
32万3000農場

資料：アルゼンチン工業生産・労働省

肉用牛の飼養形態の割合（パタゴニア地域）

■ 繁殖農場 ■ 一貫農場 ■ 肥育農場 ■ フィードロット農場



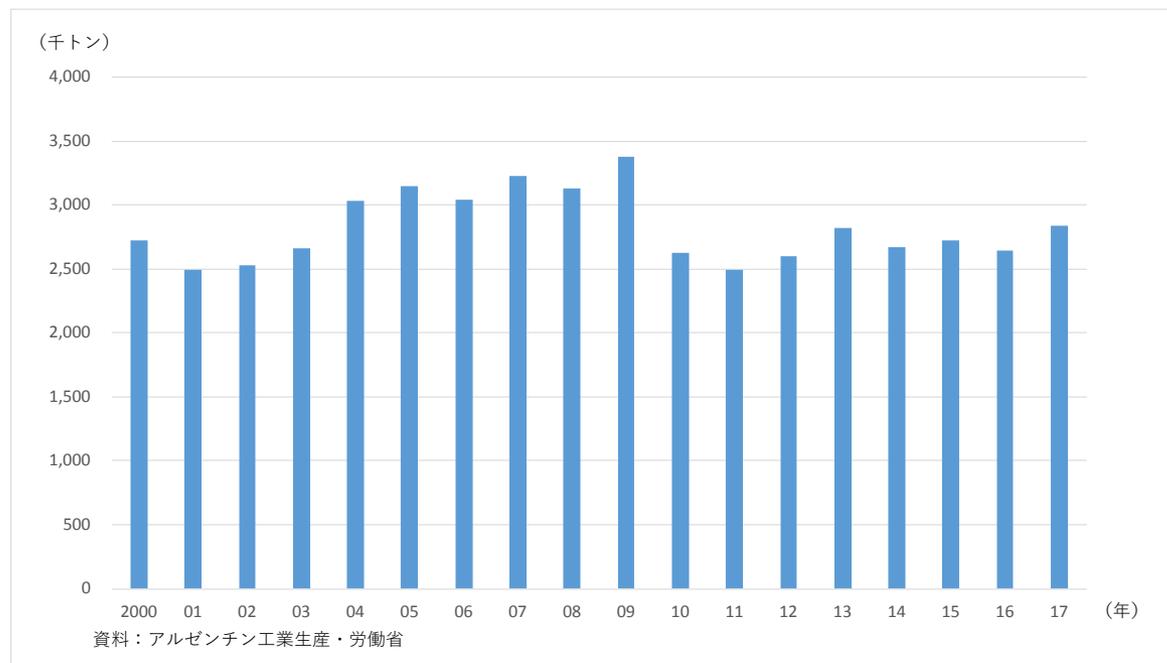
合計  
1万1000農場

資料：アルゼンチン工業生産・労働省

- アルゼンチン全体では、と畜頭数の約7割で、フィードロットによる肥育又は仕上げ期の穀物給与が行われている。
- パタゴニア地域と北部地域とでは、気候が異なり、ブエノスアイレスが温帯湿潤気候であるのに対し、パタゴニア地域の多くが砂漠気候又はステップ気候
- 牧草や穀物の生産面で北部地域より不利
- 特に、穀物については、主産地からも離れており、調達が難しいことから、牧草肥育が中心。

- アルゼンチン全体の生産量は、2008～2009年の干ばつに加え、輸出登録制度等による輸出停滞により、減少傾向だったものの、2017年以降は回復へ
- パタゴニア地域の生産量は、と畜頭数ベースで、全体のシェア2.4%

## 生産量の推移



- ▶北パタゴニアA地域が、OIEから口蹄疫ワクチン非接種清浄地域の認証を受けるため、2013年2月以降北部地域からの生体牛受け入れが禁止された
  - 北パタゴニアA地域のパッカーのと畜頭数が減少
  - 口蹄疫ワクチン非接種清浄地域となったことが逆にマイナスとなった
  - 現在も、2013年以前の水準には戻っていないとのこと。
- ▶北部と比較して事故率が高いなど、飼養レベルは高くないという意見も
  - 技術改善の余力はある？

1 はじめに ～パタゴニア地域とは～

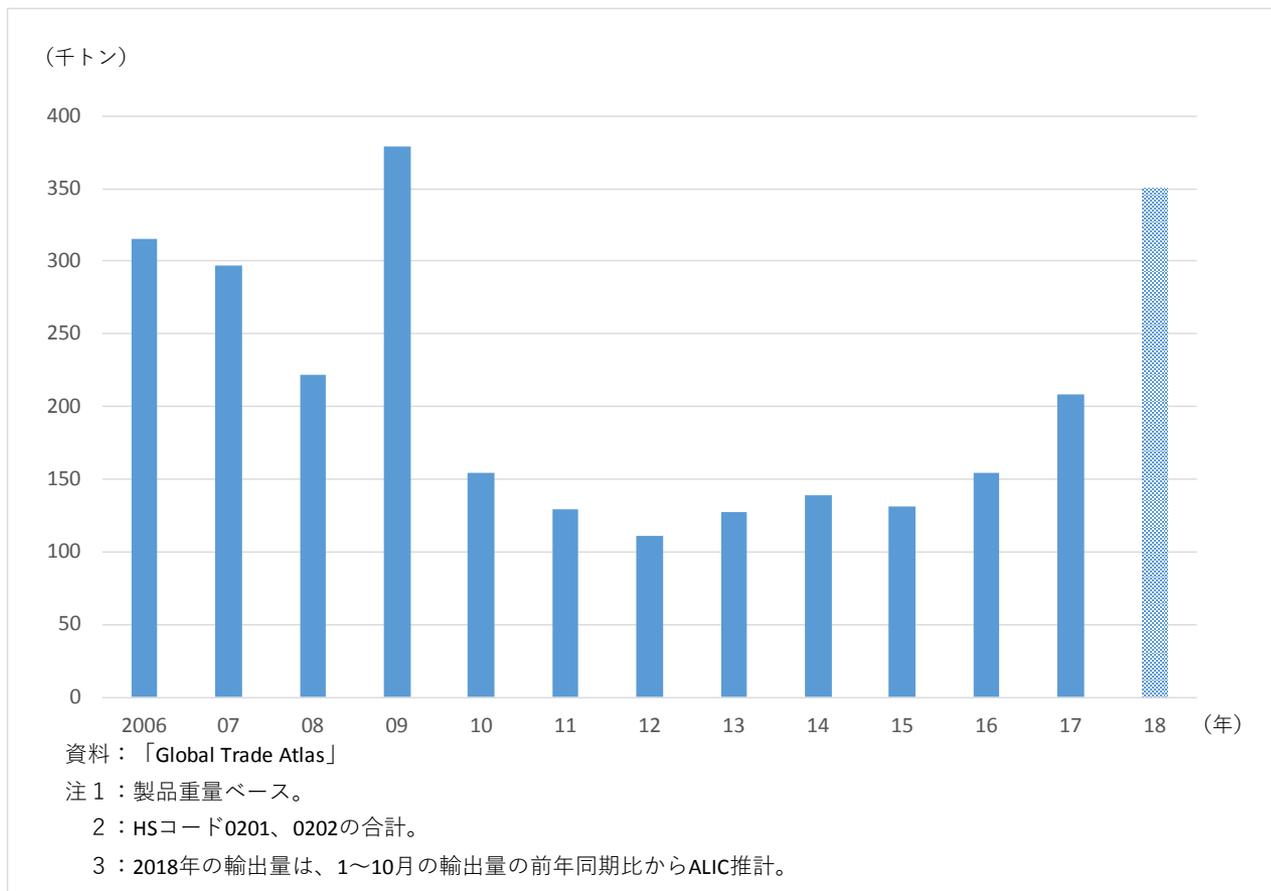
2 牛肉生産動向 ～そもそも牛肉生産は行われている？～

3 輸出動向 ～輸出の現状は、成長可能性は～

4 まとめ

- 輸出税や輸出登録制度の影響で、伸び悩んでいたが、近年は回復傾向。

## 輸出量の推移



➤2018年は、1～10月の前年同期比で67.6%増。

→中国からの旺盛な需要、

ブラジル産を輸入停止としたロシアからの代替需要が牽引

## アルゼンチン輸出量

(単位：トン)

	2017年 (1～10月)	2018年 (1～10月)	前年同期比
			(増減率)
中国	76,457	155,145	102.9%
ロシア	4,455	35,607	699.3%
チリ	23,136	26,766	15.7%
ドイツ	18,350	20,712	12.9%
イスラエル	17,757	16,832	▲ 5.2%
オランダ	8,389	10,862	29.5%
その他	20,765	17,857	▲ 14.0%
計	169,309	283,781	67.6%

資料：アルゼンチン国家統計院 (INDEC)

注：HSコード0201、0202の冷蔵・冷凍牛肉を集計。

## ロシア輸入量

(単位：トン)

	2017年 (1～8月)	2018年 (1～8月)	前年同期比
			(増減率)
ベラルーシ	81,014	89,403	10.4%
パラグアイ	41,141	70,139	70.5%
アルゼンチン	3,677	20,125	447.3%
インド	5,583	13,265	137.6%
ウルグアイ	4,582	10,419	127.4%
ブラジル	86,251	7,371	▲ 91.5%
その他	5,728	8,738	52.5%
計	227,976	219,460	▲ 3.7%

資料：ロシア税関

注：HSコード0201、0202の冷蔵・冷凍牛肉を集計。

- 価格優位性を活かして、中国への輸出を増やしている。
- EU向け高級生鮮牛肉輸出も順調に推移。

## 中国における牛肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	
					1～3月	前年同期比 (増減率)
世界	29.5	46.7	57.3	68.9	21.0	32.0%
ブラジル	-	5.6	17.1	19.8	6.3	35.0%
ウルグアイ	8.9	12.3	15.5	19.6	5.1	10.0%
豪州	13.2	14.9	10.4	11.0	3.2	35.3%
アルゼンチン	1.7	4.3	5.2	8.6	3.0	105.4%
ニュージーランド	4.0	7.0	7.2	7.9	2.8	19.4%
米国	-	-	-	0.2	0.2	-
その他	1.6	2.5	1.9	1.8	0.4	▲4.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード0202。

## ヒルトン枠の国別消化量の推移

対象国	枠内数量	2014/15年度		15/16年度		16/17年度		17/18年度	
		消化量 (トン)	消化率 (%)						
アルゼンチン	29,500	22,867.03	77.52%	22,350.61	75.76%	23,111.89	75.76%	28,091.29	95.22%
カナダ/米国	11,500	353.46	3.07%	292.16	2.54%	421.40	2.54%	2,351.37	20.45%
ブラジル	10,000	7,989.89	79.90%	9,289.17	92.89%	8,572.40	92.89%	5,057.27	50.57%
豪州	7,150	6,815.93	95.33%	6,749.85	94.40%	4,051.04	94.40%	5,333.48	74.59%
ウルグアイ	6,376	6,280.98	98.51%	6,249.09	98.01%	6,365.55	98.01%	5,057.27	79.32%
ニュージーランド	1,300	1,299.45	99.96%	1,299.95	100.00%	1,161.63	100.00%	1,122.25	86.33%
パラグアイ	1,000	12.13	1.21%	915.63	91.56%	982.60	91.56%	962.21	96.22%

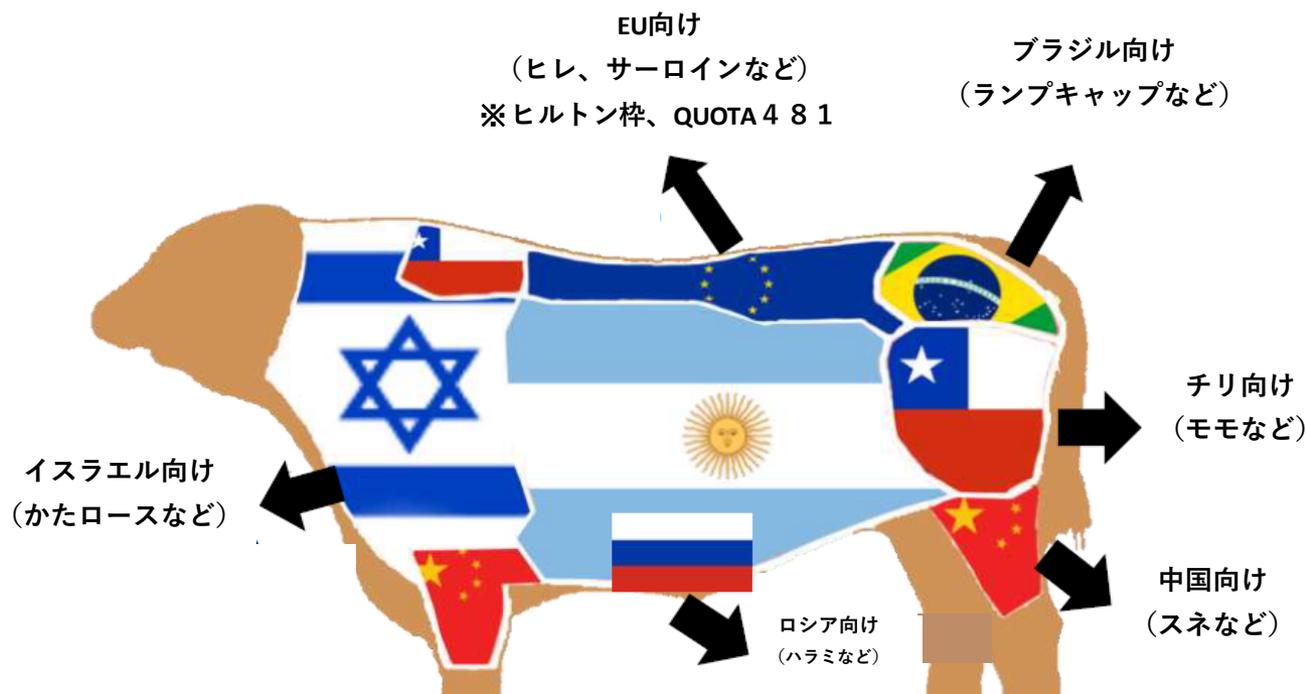
資料：欧州委員会

注 1：年度は7月～翌6月。

2：ヒルトン枠とは、EUが定める高級牛肉関税枠で、従価税20%。牧草肥育でなければいけないなど一定の条件がある。

- 高級部位はEU向け、低級部位は中国向けなど、部位別の主な輸出先はおおむね決まっている。

## 牛肉の部位別の主な輸出先



資料：アルゼンチン地域農業者連盟

- 輸出パッカー自体が少なく、対日輸出可能なパッカーは1社のみ（FRIDEVI社）。
- 輸出用去勢牛の確保に苦慮。

## FRIDEVI社の概要

項目	内容	備考
処理能力	8,000頭／月	
稼働日数	5日／週	
従業員	340人	
シフト	と畜・カット部門：5:00～14:00	
と畜頭数	5万1576頭（2016年7月～翌6月）	
生産量	1万2079トン（2016年7月～翌6月）	枝肉重量ベース
輸出量	277.7トン（2016年7月～翌6月）	製品重量ベース
主な輸出先	EU、ブラジルなど	

資料：FRIDEVI社からの聞き取りにより機構作成

- アルゼンチン国内では、「小さい牛ほどおいしい」という固定観念があり、生体320～380kg程度の牛が人気。
- 一方、輸出に仕向けられるのは450kg以上の牛がほとんど。



FRIDEVI社所有のフィードロット 出荷前の国内用生体牛

- 出荷サイクルが短い＝経営上のリスクが軽減できる  
→相応の利益がないと生産者は輸出向けの牛を生産しない
- 北部地域からパタゴニア地域へ牛肉を持ち込むには、  
脱骨・熟成が必要、  
そのため、アルゼンチンの国民食である「アサード」用の  
骨付肉は全てパタゴニア産  
→ブエノスアイレス市街よりも高値で取引される

## 北パタゴニアA地域における販売価格（2018年3月現在）

部位	現地呼称	販売価格 (ペソ/kg)	円換算 (円/kg)	(参考) ブエノスアイレス市内の販売 価格 (ペソ/kg)	円換算 (円/kg)
リブプレート	ASADO C HUESO	199.9	1,059	158.0	837
ストリップロイン	BIFE ANGOS	289.0	1,532	171.5	909
テンダーロイン	LOMO	299.0	1,585	199.0	1,055
ランプテール	COLITA CUADRIL	209.9	1,112	213.5	1,132
チャックロール	PECETO	209.9	1,112	230.0	1,219
ショートプレート	VACIO	199.9	1,059	228.9	1,213

- ▶ アルゼンチン人は、骨付のバラ肉をパリージャと呼ばれる金網でワイルドに焼いた「アサード」という炭火焼きで食するのが一般的。
- ▶ 街の「アサード」レストランは、夜の8時頃から開店し始め、アルゼンチン人は12時頃までかけてゆっくりと食事を楽しむ。



- EU向け用に、FRIDEVI社が所在するリオネグロ州管内の農協の生産者60者と輸出用の去勢牛の出荷契約を締結  
→ 安定的な供給を図りたいとする狙い
- 将来的な日本向けの輸出増を狙い、契約者数を増やしたいというのが同社の意向  
→ 現状、EU向けの一部を日本向けに仕向けている状況  
→ 直近数年はこの状況が続く？

- EUとは高価格帯の部位を中心に長年取引を行っている  
→肉質面の評価は非常に高い。
- ウルグアイと比較してより高いFOB価格で取引されている。
- パタゴニア地域：アンガスorアンガス×ヘレフォードの交雑  
ウルグアイ：ヘレフォード
- 肉質面の優位性は強みとなるか。ブランディング次第？

## アルゼンチンとウルグアイのFOB価格の比較

区分	アルゼンチン (米ドル/トン)	ウルグアイ (米ドル/トン)	差(%)
中国	4,204	3,975	5.8%
ロシア	3,413	3,626	▲ 5.9%
チリ	5,732	5,635	1.7%
ドイツ	10,745	9,775	9.9%
イスラエル	6,653	6,163	7.9%
オランダ	10,846	9,203	17.9%
その他	8,038	6,370	26.2%
合計	5,367	5,034	6.6%

資料：INDEC、ウルグアイ中央銀行

注：HSコード0201、0102の冷蔵・冷凍牛肉を集計。

## ➤ 地理的な距離

- ・ 日本まで船で45～60日
- ・ パタゴニア地域からブエノスアイレスの輸出港まで1000km以上
- ・ チルドでの対日輸出はほぼ不可能、フローズンのみ

→ 豪州や米国などのフローズンと比較して、コストが大幅増

## ➤ 輸出余力の低さ

- ・ 生産能力の低さ、輸出用去勢牛の確保の問題

- バランカス川およびコロラド川付近に12カ所
- 一般車両を含む全車両が対象
- 生体、冷蔵・冷凍牛肉に対し移動を厳しく制限



- ▶ 生体家畜や動物製品を載せたトラックは、
  - ① アルゼンチン国家農畜産品衛生管理機構（SENASA）が発行する生体家畜や動物製品の運搬許可証
  - ② 家畜の移動記録書（DT-e）又は動物製品に関する移動制限許可証（PTR）などの確認がなされる。
- ▶ また、パタゴニア地域の空港（12カ所）においても動物、畜産物の持ち込み規制が実施されている。



SENASA職員による検査の様子



車両認定番号

- FRIDEVI社は、将来的に日本向けを200トン/年を想定
- 「安い部位を安く」ではなく、EU向けと同じレベルの品質での輸出を目指している。
- 7月に200kg、10月に1トン輸入。
- 大使館主催のイベントでも好評。
- ALICにも随時問い合わせが入っている



イベントで提供された料理

1 はじめに ～パタゴニア地域とは～

2 牛肉生産動向 ～そもそも牛肉生産は行われている？～

3 輸出動向 ～輸出の現状は、成長可能性は～

4 まとめ

## □ 現状

- 気候のハンデ、技術の未熟さなど、生産能力に課題
- パタゴニアからの輸出は、パッカーが限られることから限定的。輸出用去勢牛の調達難の問題も。

## □ 見通し

- 生産量、輸出量ともに急激な拡大は見込めない
- 一方、輸出パッカー側は、日本向け輸出拡大に意欲
- だが、千トン単位の輸出は見込めず、ホテルなど一部外食産業に限られるか。
- 北部解禁への足がかりという思惑も。

## (参考) ウルグアイの対日輸出解禁について

- パタゴニア地域と同様、2018年3月22日に政府間合意
- 11月30日付けで両国間の衛生条件が締結
- 現在、輸出認定施設の登録作業を行っており、これが終了すれば、実際の輸出が開始される予定。

参考 主要牛肉輸出施設一覧

施設番号	施設名	資本	中国向け (20力所)	EU向け (22力所)	米国向け (22力所)
2	ESTABLECIMIENTOS COLONIA S.A.	ブラジル (Marfrig)	○	○	○
3	FRIGORÍFICO MATADERO CARRASCO S.A.	ブラジル (Minerva)	○	○	○
7	FRIGORÍFICO PUL - PULSA S.A.	ブラジル (Minerva)	○	○	○
8	FRIGORÍFICO CANELONES S.A.	ブラジル (JBS)	○	○	○
12	FRIGORÍFICO TACUAREMBO S.A.	ブラジル (Marfrig)	○	○	○
14	FRIGORÍFICO DURAZNO - Frigocerro S.A.	ウルグアイ	○	○	○
22	MATADERO ROSARIO - Rondatel S.A.	中国 (Foresun)	○	○	○
26	FRIGOYI - BILACOR S.A.	ウルグアイ	○	○	○
52	FRIGORÍFICO SCHNECK - Suc. Carlos Schneck S.A.	ウルグアイ	○	○	○
55	INALER S.A.	ブラジル (Marfrig)	○	○	○
58	FRICASA - Frigorífico Casa Blanca S.A.	ウルグアイ	○	○	○
85	FRIGORÍFICO SARUBBI - Sirsil S.A.	ウルグアイ	○	○	○
104	FRIGORÍFICO LAS MORAS - Chiadel S.A.	ウルグアイ	○	○	○
150	SOLÍS MEAT URUGUAY - Ersinal S.A.	ウルグアイ	○	○	○
224	LORSINAL S.A.	中国 (Foresun)	○	○	○
245	FRIGORÍFICO COPAYAN S.A.	ウルグアイ	-	○	○
310	BREEDERS & PACKERS URUGUAY S.A.	日本	○	○	○
344	FRIGORÍFICO SAN JACINTO - Nirea S.A.	ウルグアイ・アルゼンチン	○	○	○
365	FRIGORÍFICO FLORIDA - CLADEMAR S.A.	ウルグアイ	-	○	○
379	FRIGORÍFICO LAS PIEDRAS S.A.	ウルグアイ	○	○	○
394	FRIGORÍFICO LA CABALLADA - Cledinor S.A.	ブラジル (Marfrig)	○	○	○
439	FRIGORÍFICO MATADERO PANDO - Ontilcor S.A.	ウルグアイ	○	○	○

資料: ウルグアイ食肉協会 (INAC) 「EMPRESAS EXPORTADORAS DEL SECTOR CÁRNICO (2018年11月23日版)」

## (参考) ウルグアイの対日輸出解禁について

- 2018年の輸出量は前年同期比4.0%増の約26万トン
- アルゼンチン同様、中国向けとロシア向けが牽引
- ウルグアイは牧草肥育がメイン、9割がヘレフォード種
- アルゼンチンと異なり、全国から輸出出来ることから、数量は出せる可能性はあるものの、豪州産への依存度が高い挽き材としての需要が中心か？

### ウルグアイの牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2017年 (1～10月)	2018年 (1～10月)	前年同期比
			(増減率)
中国	131,813	143,105	8.6%
米国	30,966	28,790	▲ 7.0%
オランダ	15,888	14,894	▲ 6.3%
ロシア	5,421	14,768	172.4%
イスラエル	18,772	12,449	▲ 33.7%
ブラジル	8,159	7,317	▲ 10.3%
その他	41,456	41,138	▲ 0.8%
計	252,475	262,461	4.0%

資料：ウルグアイ中央銀行

注：HSコード0201、0202の冷蔵・冷凍牛肉を集計。

# ご清聴ありがとうございました。

「畜産の情報」2018年7月号に掲載しております。

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。

## ※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ（<https://www.alic.go.jp>）右の「メールマガジン」ボタンからご登録ください。

